

令和5年度 学校自己評価システムシート（さいたま市立河合小学校）

学校番号 094

【様式】

目指す学校像	笑顔があふれる学校 きれいな学校 安全な学校 信頼される学校		
重点目標	1 「できた」「わかった」喜びを味わえる授業実践と地域の教育資源を生かした教育の推進 2 安全・安心な学校づくりに向け、豊かな心と健やかな体の育成と設備・施設の適切な管理 3 学校運営協議会と協働し、地域・保護者と一体となった学校運営の推進 4 教職員一人ひとりの業務遂行能力向上を図る研修と環境の充実		

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価	
年 度 評 価								
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度		次年度への課題と改善策
1	〈現状〉 ○全国学力・学習状況調査では、国語、算数ともに全国、市平均を下回っている。 ○さいたま市学習状況調査の生活習慣に関する調査の質問「国語の授業内容はよく分かりますか。」で肯定的な回答の割合が市よりも下回っている。 ○日頃の学習の様子を見ると、基礎的・基本的な事項が身につけていない児童が多い。 〈課題〉 ○全国学力・学習状況調査の結果分析より、国語は「読む」「書く」力、算数は基礎基本の徹底が必要である。 ○国語や算数において、基礎的・基本的事項を身に付けていくことが課題である。	「できた」「わかった」喜びを味わえる授業実践	①スタディサブリ、ドリルパークの活用により授業の中で個に応じた指導を行い、習熟を図る。 ②朝学習の時間を計画的に設定し有効に使い、国語の読解力と算数の基礎基本を身に付けさせる。 ③校務用端末を活用し担任が個々の成績データベースを活用することで具体的な学力改善策を個人面談等で保護者に情報提供する。 ④タブレット端末等を使用した調べ学習を推進し、プレゼンテーション資料を作成・活用した授業を実践したり、プログラミング的思考力を育むために STEAMS TIME で体験活動を行ったりする。 ⑤算数の授業を中心に SA や T2 を配置し、少人数指導または個別指導を実施する。	①スタディサブリ、ドリルパークを授業や家庭学習で活用できたか。 ②朝の学習の時間に、国語や算数の基礎的・基本的事項の定着を図る教育計画が実践されたか。 ③校務用端末で児童の成績管理を適切に行い、個人面談や通知表等で課題や具体的な方策を伝えることができたか。 ④年間に 1 回以上、タブレット端末を使った授業（発表で使ったもの）を公開したか。 ⑤算数科における少人数指導、ティームティーチングを実施し、知識・技能に関する正答率を 7 0 %以上とする。	①全校児童がスタディサブリ、ドリルパークを授業で使用し、長期休業中や日々の家庭学習では宿題の配信等を実施するなど活用した。 ②朝の学習の時間に、チャレンジ国語、チャレンジ算数、チャレンジ音読など国語・算数の基礎的・基本的事項の定着を図る時間を設定、実施した。 ③児童の成績について教科担任を含めた教職員全体で校務用端末を活用し適切に管理し、個人面談や通知表等で課題や具体的な方策を伝えた。 ④年間に 1 回以上、タブレット端末を使った授業（発表で使ったもの）を公開した。 ⑤算数科における少人数指導、ティームティーチングは各学年で実施し充実した指導を行った。知識・技能に関する正答率は 6 6 %であった。	A	①児童のさらなる学力の向上のために基礎的な内容の定着を徹底する。 【方策】 教科担任制を生かした時間割の工夫や SA の活用により複数体制での算数の授業を実施し、基礎的な理解の向上を目指す。 ②授業での ICT のより効果的な活用により児童の学習意欲や学習理解度の向上を目指す。 【方策】 教職員による学校全体の研修の充実と研究授業の相互参観による授業力向上を図る。	・規律のある授業の中に個別指導も行われていてよい。 ・児童の学習がより深まり、学力の向上ができるようにさらに取り組んでほしい。計算や漢字等の基礎基本を短時間で繰り返す等の学習も必要ではないか。 ・算数の授業に複数の教員を配置する体制はとてもよい。その体制や実施内容を保護者に周知できると更に安心感が高まる。 ・ICT の活用により学習に多様性や幅が出ていることが分かった。家庭での使用方法についてもさらに考えていけるとよい。
		地域の教育資源を生かした教育の推進	①総合的な学習の時間において体験活動を重視し、教科横断的に探究活動を実施する。また、異学年交流を通して思いやりの心や規範意識を高める。	①学校評価（保護者）「学校では～体験したりする授業を行っている」項目の肯定的な回答の割合が 80 %以上となったか。	①学校評価（保護者）「学校では～体験したりする授業を行っている」項目の肯定的な回答の割合が 83 %であった。	A	①地域教育力を生かし、児童の教育の充実を図る。 【方策】 学習内容にあった必要な学習ボランティアの募集、活用を実施。	
2	〈現状〉 ○全国学力・学習状況調査の結果の生活習慣に関する調査の「人が困っているときは進んで助けている」や「学校に行くのは楽しい」で市の平均を大きく上回っている。 ○昨年度の保護者による学校評価で「学校は児童の事故防止に努め、施設・設備の安全に配慮している」「児童が落ち着いて学習・生活できる環境整備がなされている」で肯定的な回答が、約 9 割であった。 〈課題〉 ○今年度は特別支援学級が設置されていないが、特別な配慮を要する児童は多数いるので、さらなる個別支援・個に応じた指導が必要である。 ○施設・設備の老朽化が進み、計画的な修繕・保守が必要である。	豊かな心と健やかな体の育成	①生徒指導・教育相談部会で情報を共有し、個別な対応の仕方を共通理解し、配慮を要する児童へ適切に対応する。また、保護者への対応も同時に行うために「すこやか相談」を毎月実施する。 ②「心を潤す 4 つの言葉」を意識させ、規律ある態度を育成する。 ③「いのちの支え合い」を学ぶ授業や道徳教育を充実させ、命の尊さ・思いやりの心について自分事として向き合い、考えを深めさせる。 ④食育を推進し、地元食材を使った給食の提供をする。	①学校評価（保護者）「学校では、児童の悩みやトラブル等に適切に対応している」項目で肯定的な回答の割合が 88 %以上であったか。 ②学校評価（児童）「進んであいさつをしている」項目の肯定的な回答の割合が 90 %以上であったか。 ③学校評価（児童）「友達を思いやり仲良く助け合っている」項目の肯定的な回答の割合が 90 %以上であったか。 ④給食回数の 1 / 3 で地元食材を提供できたか。	①学校評価（保護者）「学校では、児童の悩みやトラブル等に適切に対応している」項目で肯定的な回答の割合が 84 %であった。 ②学校評価（児童）「進んであいさつをしている」項目の肯定的な回答の割合が 89 %だった。 ③学校評価（児童）「友達を思いやり仲良く合っている」項目の肯定的な回答の割合が 91 %であった。 ④給食回数の 1 / 2 以上の回数分で地元食材を提供できた。	B	①河合小の約束の徹底や児童同士のより良い関係の構築を図る。 【方策】 あいさつ運動充実と縦割り活動の活発化により全校児童のよい関係作りを進める。 ②個に応じた対応や配慮を要する児童を大切にした指導の充実を図る。 【方策】 個別支援の対応ができる組織作りとスクールダッシュボードの活用方法の研修を行い、検証していく。	・あいさつは個々によって違いがある。元気にあいさつできる子を育ててもらいたい。地域でも進んであいさつをしていきたい。 ・河合小の約束や学校のきまりについては、全教職員が共通理解し、共通行動をとれるといいのではないかな。 ・学習環境を含め、子どもたちの指導についても学校が（教員が）よくやってくれていて、取組が充実していることが分かる。 ・子どもたちがよい環境で学べていることが分かり、とてもうれしく思う。
		適切な設備・施設の管理	①安全点検の確実な実施と修繕等の即時対応の確認をする。 ②清掃活動を充実させ廊下や教室に余計な物がない状態やゴミのないきれいな学校を作る。職員室内の物や個人情報の整理整頓を行う。ゴミや物が落ちていない状態を維持する。 ③環境教育の一環として校内を花でいっぱいの明るい環境にし、豊かな心を醸成する。 ④理科・家庭科の教材・教具を中心に安全安心で最新のものに更新する。	①学校評価（保護者）「学校では～施設・設備の安全に配慮している」項目の肯定的な回答の割合が 85 %以上となったか。昨年度目標 8 0 % ②教職員による評価「清掃活動を徹底し、清潔で整頓された教育環境を維持している」項目の肯定的な回答の割合が 80 %以上となったか。 ③季節ごとに校内の花草が植え替えられているか。 ④理科・家庭科の教材・教具が最新のものになっているか。	①学校評価（保護者）「学校では～施設・設備の安全に配慮している」項目の肯定的な回答の割合が 88 %であった。 ②教職員による評価「清掃活動を徹底し、清潔で整頓された教育環境を維持している」項目の肯定的な回答の割合が 81 %以上となった。 ③季節ごとに校内の花を植え替えたり、整美したりし、美しく明るい環境を作れた。 ④理科の教具を優先的に購入し、児童が学習しやすい環境を作った。	A	①児童が安心して学習できる環境の整備・維持を進める。 【方策】 施設設備の点検を適切に行い、修繕等の対応、市教委への依頼を通して教育環境を整備していく。	
3	〈現状〉 ○学校運営協議会において、本校の重点指導項目（あいさつの励行、規範意識の醸成等）を共有し、本年度の学校経営方針に取り入れた。 〈課題〉 ○学校運営協議会で共有した指導項目を地域・家庭等に周知し、さらなる共通理解の下一体となって取り組んでいく。 ○地域の意見に偏ってしまうので、学校運営協議会に保護者代表や同じ中学校区の校長を委員に入れ、意見を取り入れる。 ○学校運営協議会の熟議の進行の仕方を工夫し、より関連な意見交換ができるようにする。	重点指導項目の周知と継続的な教育活動の推進	①委員を再考し、運営協議会を年 3 回開催し、熟議を元に協働活動を行う。 第 1 回 地域で育てたい力等について 第 2 回 育てたい力の実現に向けた方策について 第 3 回 基本方針の確認と次年度の学校経営方針案の仮承認 ②学校だより等を HP への掲載による発信で確実な情報共有を行い、行事を直接公開することや動画や写真などで公開することで積極的な情報発信をする。情報共有や情報発信は学校安心メールや HP、teams や foams 等を効果的に活用する。	①学校運営協議会を年 3 回実施し、委員とともに学校運営について十分な協議ができたか。 ②学校評価（保護者）「各種たよりやホームページ、学校安心メール等で積極的に情報を提供している」項目の肯定的な回答の割合が 85 %以上となったか。昨年度目標 8 0 %	①学校運営協議会を年 3 回実施した。1 回目で児童につけたい力を決定し、2 回目で学校・家庭・地域で具体的に実践できる方法を話し合った。委員とともに十分な協議ができた。 ②学校評価（保護者）「各種たよりやホームページ、学校安心メール等で積極的に情報を提供している」項目の肯定的な回答の割合が 91 %であった。今年度は HP や学校安心メール、配信アプリ「スクリレ」を導入し、より情報を受け取りやすい形にした。HP に児童の活動の様子を掲載したり、学校保健委員会の様子を動画配信したりと情報発信も活発に行った。	A	①地域、家庭との連携を強化し、河合地区として児童を育成していく。 【方策】 学校運営協議会からの情報発信により地域での児童への教育姿勢の共有化を図る。 ②更なる学校情報の発信を進めていく。 【方策】 情報のデジタル化を進めるとともに内容による発信手段の選択により効果を高める。	・地域の考えを取り入れることで、学校と地域がより近い存在になることができる。熟議で話し合った取組を写真等の情報として発信し、さらに活発にしていきたい。 ・情報発信については、手紙配信アプリ「スクリレ」の導入により、保護者はとても便利に情報を活用できるようになった。
4	〈現状〉 ○教職員一人ひとりが ICT を研修、活用し業務を効率化、時間短縮化ができるようになってきた。 ○昨年度、日課や学校行事の見直しを行い、ゆとりをもった教育活動を計画した。 〈課題〉 ○教職員数が少なく、一人ひとりに係る校務分掌の数が多いので、更なる業務の効率化を行い、教材研究の時間を確保することが課題である。	教職員一人ひとりが職務遂行能力向上を図る研修と環境の充実	①「よい授業」の 4 因子や「学びの指標」を意識した授業を実施し、教員一人ひとりに目標を設定させる。 ②河合小スタンダード 2 0 2 3 版を再検討し、よりよい教職員関係の構築と共通行動が取れるようにする。 ③エバンジェリストを中心に ICT 活用の研修を充実させ、個別最適な学びによる授業を 1 人 1 授業実施する。授業実践及び担当業務に生かす。	①「よい授業」や「学びの指標」アンケートの一人ひとりに合わせた目標が 1 回目より向上したか。 ②教職員による評価「共通理解を心がけ、指導している」項目の肯定的な回答の割合が 80 %以上となったか。 ③教職員による評価「研究授業を通して、指導力が向上した」項目の肯定的な回答の割合が 80 %以上となったか。	①授業アンケートが 1 回実施になったため比較できないが、各自目標を意識した授業実践を行った。 ②教職員による評価「共通理解を心がけ、指導している」項目の肯定的な回答の割合が 81 %となった。 ③教職員による評価「研究授業を通して、指導力が向上した」項目の肯定的な回答の割合が 81 %となった。研修で ICT 活用法を学び、授業で生かす機会が増えてきた。	A	①授業での ICT のより効果的な活用により児童の学習意欲や学習理解度の向上を目指す。 【方策】 教職員による学校全体の研修の充実と研究授業の相互参観による授業力向上を図る。	・評価を見て、日々教職員が児童のために授業等、教育活動を熱心に行っていることがよく分かった。

